

# 国内資源の肥料利用の拡大に向けた取組

2023.9.15

第2回 汚泥資源を利用した肥料成分を保証可能な新たな公定規格（菌体りん酸肥料）に関する説明会

令和5年9月  
農林水産省  
農産局 技術普及課

# 肥料をめぐる現状

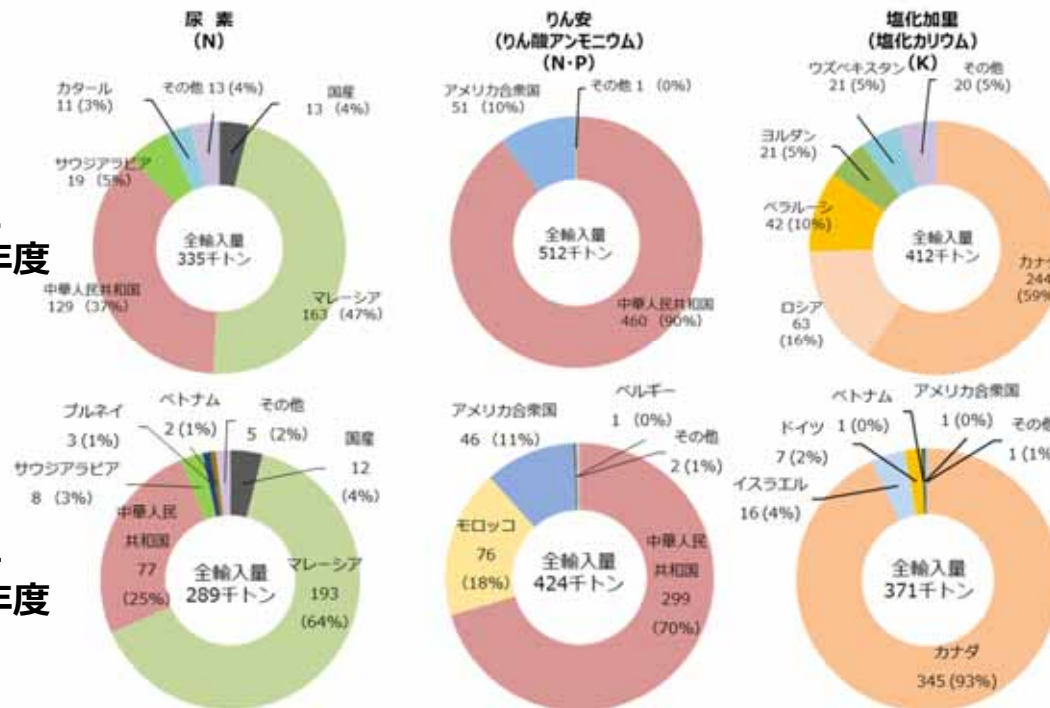
- 農業生産に必要不可欠な肥料は、その原料の多くを海外に依存していることから、国際市況や原料産出国の輸出に係る動向の影響を強く受けやすい状況。
- 海外からの輸入原料に依存した肥料から、国内資源を活用した肥料への転換を進め、国際情勢に左右されにくい安定的な肥料の供給と持続可能な農業生産を実現する必要。

## 肥料原料の輸入状況

## 肥料原料の国際価格の動向

R2  
肥料年度

R4  
肥料年度



資料：財務省「貿易統計」等を基に作成。 注：全輸入量には、国産は含まれない。



※ 農林水産省調べ  
財務省貿易統計における各原料の輸入額を輸入量で除して算出。  
ただし、月当たりの輸入量が5,000t以下の月は前月の価格を表記。

# 今後の肥料対策の方向性

## 食料・農業・農村政策の新たな展開方向（抄）（令和5年6月2日 食料安定供給・農林水産業基盤強化本部）

国際的な食料生産の不安定化、我が国の農業従事者の減少、農業をめぐる国際的な議論の変化を踏まえ、平時からすべての国民の食料安全保障を確保するため、食料・農業・農村基本法を見直し。  
この見直しの方向性について、「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」で取りまとめ。

### Ⅱ 政策の新たな展開方向

#### 2 食料の安定供給の確保

##### （2）生産資材の確保・安定供給

食料や生産資材について過度な輸入依存を低減していくため、農業生産に不可欠な資材である肥料について、堆肥・下水汚泥資源、稲わら等の国内資源の利用拡大や、肥料の使用の低減に資する環境負荷低減の取組を推進するなどの構造転換を進めていく。

現行の基本法では、生産資材については、生産・流通の合理化を促進する旨が規定されるにとどまるが、生産性・品質・環境等も考慮して安定的な確保・供給も促進することとし、輸入への依存度が高い生産資材について、未利用資源の活用等、国内で生産できる代替物へ転換することを位置付ける。

その際、**肥料**については、価格・供給の安定を図るため、

① **平時**においては、**化学肥料から堆肥や下水汚泥資源等の代替資源への転換、堆肥の広域流通を促進**するとともに、**調達先国との資源外交の展開、肥料原料の備蓄体制の強化**を進める。

② **価格急騰時**においては、**価格転嫁が間に合わない高騰分の補填対策を明確化して対応**していく。

（略）

## 食料品等の物価高騰対応のための緊急パッケージ（令和4年11月8日食料安定供給・農林水産業基盤強化本部決定）

### 1. 下水汚泥資源・堆肥等の利用拡大によるグリーン化の推進と肥料の国産化・安定供給

#### ○ 堆肥や下水汚泥資源等の肥料利用拡大を図るため、畜産農家、肥料メーカー、耕種農家等の連携や施設整備等への新たな支援策の創設。

- ・ 下水汚泥資源の肥料利用の推進 【国土交通省】30億円  
（下水汚泥資源の流通経路の確保等に向けたマッチングや施設整備、PR等を支援）
- ・ ペレット堆肥流通・下水汚泥資源等の肥料利用促進技術の開発・実証【農林水産省】10億円  
（ペレット化した堆肥の広域流通や下水汚泥資源を原料とする肥料の製造効率化の実証等を支援）
- ・ 国内肥料資源利用拡大対策 【農林水産省】100億円  
（畜産農家、肥料メーカー、耕種農家等の連携による国内資源の利用拡大に向けた取組を支援）

## 食料安全保障強化政策大綱（令和4年12月27日食料安定供給・農林水産業基盤強化本部決定）（抄）

### Ⅲ 食料安全保障の強化のための重点対策

#### 1 食料安全保障構造転換対策（過度な輸入依存からの脱却に向けた構造的な課題への対応）

##### （1）生産資材の国内代替転換等

生産資材について、例えば化学肥料原料は、大半を輸入に依存しており、その安定供給に向けて肥料原料の備蓄等の重要性が増している。一方、国内には、堆肥、下水汚泥資源等の国内資源が存在しており、これらの生産資材の代替転換や化学肥料の使用低減は、環境への負荷低減にも資するなど、将来にわたって持続可能な生産への転換を実現するものとなる。

（略）

以上を踏まえ、**肥料については、堆肥や下水汚泥資源等の肥料利用拡大への支援（畜産農家・下水道管理者、肥料メーカー、耕種農家などの連携や施設整備等への支援など）、土壌診断・堆肥の活用等による化学肥料の使用低減、肥料原料の備蓄に取り組む。**

（略）

（目標）

・ **2030年までに化学肥料の使用量の低減 ▲20%**

・ **2030年までに、堆肥・下水汚泥資源の使用量を倍増し、**

**肥料の使用量（リンベース）に占める国内資源の利用割合を40%まで拡大（2021年：25%）**

（略）

# 支援策の概要

## 国内肥料資源利用拡大対策

【令和6年度予算概算要求額 3,601（-）百万円】

### <対策のポイント>

肥料の国産化に向けて、畜産業由来の堆肥や下水汚泥資源などの国内資源の肥料利用を推進するため、肥料の原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者の連携づくりや施設整備等を支援するとともに、価格転嫁が間に合わない場合に必要となる肥料価格急騰対策に関する調査等を実施します。

### <事業目標>

肥料の使用量（リンベース）に占める国内資源の利用割合を拡大（40%〔令和12年度まで〕）

### <事業の内容>

#### 1. 施設整備等への支援

堆肥等の高品質化・ペレット化など、広域流通等に必要な施設整備等を支援します。

#### 2. 国内資源の肥料利用拡大等の取組への支援

- ① ほ場での効果検証の取組、成分分析、検討会開催、機械導入等を支援します。
- ② 関係事業者間のマッチングや理解醸成等の取組を支援します。
- ③ 価格転嫁が間に合わない場合に必要となる肥料価格急騰対策の発動に要する国内外の肥料原料価格の動向調査等を進めます。

#### 3. 国内資源の肥料利用拡大に向けた調査

- ① 国内資源の肥料利用の効率化に必要な全国の土壌養分の状況を調査し、土地生産力を明らかにします。
- ② 家畜排せつ物の管理方法の実態を調査し、利用状況等を明らかにします。

### <事業イメージ>



### <事業の流れ>



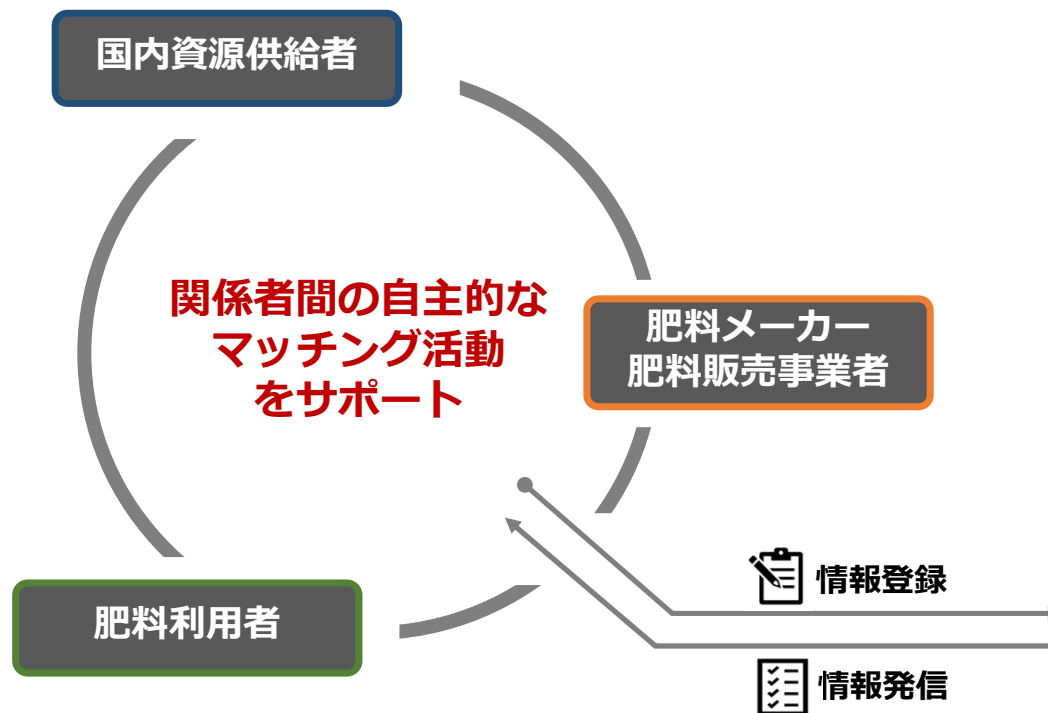
【お問い合わせ先】

|               |          |                |
|---------------|----------|----------------|
| (1、2の事業)      | 農産局技術普及課 | (03-6744-2182) |
| (2①、3①の事業)    | 農業環境対策課  | (03-3593-6495) |
| (1、2①②、3②の事業) | 畜産局畜産振興課 | (03-6744-7189) |



# 関係事業者間の連携づくり

- 国内資源を活用した肥料の転換を進める取組を推進するためには、肥料原料の供給者、肥料の製造事業者、肥料の利用者の間での連携が不可欠。
- このため、これら関係事業者の連携づくりの契機となるよう、関係事業者のニーズ等に関する情報を一元的に収集し、互いに閲覧できるマッチングサイトを開設。（令和4年12月～）



# 国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムin東京

- 令和5年6月26日（月）に東京都大田区産業プラザPiO小展示ホールにおいて、「国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムin東京」を開催。
- 当日の来場者や展示ブース出展者や相談窓口等500名以上の関係者が一堂に会し、基調講演・先行事例の話題提供や交流会を実施。

## 【基調講演・先行事例の話題提供】

秋田県立大学金田名誉教授による基調講演のほか、以下、5団体から先進事例の紹介を行った。

（JA菊池（畜産関係）、山形県鶴岡市（汚泥関係）、北海道鹿追町（バイオマス関係）、

朝日アグリア株式会社（肥料メーカー）、株式会社不二産業（食品リサイクル）

## 【交流会の実施】

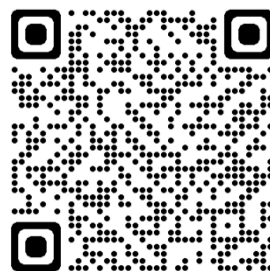
肥料サンプルや商品紹介パネル等を展示できる個別ブースを47団体が設置し、希望する原料供給者・肥料製造業者・肥料利用者等関係者の交流の場を提供。



# 国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムin九州

- 令和5年9月20日（火）に「グランメッセ熊本」（熊本県上益城郡）において、「国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムin九州」を開催予定。
- 農研機構九州沖縄農業研究センターの荒川氏による基調講演や、先進事例先としてJA菊池、佐賀市上下水道局、南国興産株式会社、JA鹿児島県経済連から取組事例の紹介を行う予定。
- また、下水道事業者（自治体）や下水汚泥肥料関係企業等による展示ブース、相談窓口等を設置し、交流会を実施。
- 来場される方は、次のサイトから事前登録願います。（開催当日、会場での登録も可能）

<https://www.kokunai-hiryo.com/>



**国内肥料資源の利用拡大に向けた  
マッチングフォーラムin九州**

**入場無料** 畜産堆肥や下水汚泥等からの肥料原料供給事業者、肥料メーカー、国内肥料利用等関係者が一堂に会し、その利用拡大に向けた交流会（マッチング）を開催します。

**開催日時** 2023年9月20日 水  
12:00～17:00（開場11:30予定）

**開催場所** グランメッセ熊本  
展示ホール D  
（熊本県上益城郡益城町福岡1010）

**基調講演** 「国内の肥料資源の有効活用による持続的農業の展開へ向けて～混合堆肥複合肥料を事例に～」  
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 研究推進部 技術活用研究チーム チーム長 荒川 祐介 氏

**プログラム**  
11:30～ 開場  
12:00～ 開会挨拶  
12:05～ 基調講演  
13:00～ 先進事例先による取組事例紹介  
14:30～ 交流コアタイム  
17:00 閉会

**ブース参加事業者（主な参加企業）**  
JAグループ、片倉コープアグリ、朝日アグリ、南国興産、豊東肥料、福岡市、佐賀市など、肥料原料事業者、肥料メーカー、肥料販売事業者、農機メーカー等40社以上の事業者が参加予定  
（各事業者の詳細は以下のサイトを参照ください。）

**公式サイト** 来場される際は、以下の公式サイトから事前登録をお願いいたします。  
（開催当日、会場での登録も可能です） <https://www.kokunai-hiryo.com/>

本イベントにかかる問い合わせ先：  
国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラム事務局  
（株式会社リベルタス・コンサルティング）  
〒102-0085 東京都千代田区六番町2-14 東橋六番町ビル  
Tel: 03-6262-1493 / Fax: 03-6262-3040  
E-mail: kokunai-hiryo@libertas.co.jp  
※本イベントは、農林水産省補助事業「国内肥料資源利用拡大対策事業」として実施しています。



# 国内肥料資源推進ロゴマーク

- 国内肥料資源の利用拡大に関する取組をさらに促進するため、全国推進協議会の会員企業が利用できるロゴマークを新たに作成。
- ロゴマークは会員企業が掲載する関連ウェブサイトや広報活動資料、生産・販売する国内資源由来肥料に貼付して利用することが可能。



広報活動への利用  
(パンフレットやHP等への掲載)



HP、webサイト



名刺



パンフレット

肥料包装（肥料袋）への貼付



肥料に貼付する場合：対象とする肥料①～⑪

国内資源由来肥料

- ① 特殊肥料
- ② 汚泥肥料
- ③ 食品残さ加工肥料
- ④ 有機質肥料
- ⑤ 回収リン

- ⑥ 混合堆肥複合肥料
- ⑦ 混合汚泥複合肥料
- ⑧ 指定配合肥料
- ⑨ 指定化成肥料
- ⑩ 特殊肥料等入り指定混合肥料
- ⑪ 土壌改良資材入り指定混合肥料

+ 化学肥料 ➡

## 【ロゴマークの利用に当たって】

- ① 国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会の会員（無料）であること
- ② 国内肥料資源推進ロゴマークの利用申請を行い、許諾をえること
- ③ 肥料包装へロゴを貼付したり、肥料のチラシにロゴを掲載する場合にあっては、対象となる肥料で、必ず国内資源が含まれる肥料であること



全国推進協議会への入会案内HP



ロゴマーク利用の申請案内HP